

# 根本正顕彰会会報 第1号

平成10年5月1日発行

## 発刊のごあいさつ

3月8日の臨時総会から50日余り。会員は増え、東京と地元の根本家の皆様の全面的なご協力と町当局のご支援、会員の皆様のご熱意によって、本会は上昇気流に乗り、いままことに幸せな状況にあります。

しかも、会員の皆様が各方面におられ、要所を占めておられる方も多く、何かにつけて会に対する支援の輪が広がっていく感があります。

私はこれもひとえに根本正先生の人間的魅力と識見と業績の賜物であると思い、本会に対する皆様のご期待の大きさを思うとき責任の大きさを感じます。微力ではありますが役員の皆様とともに頑張りたいと思しますのでよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

今回会員の皆様と知識と情報を共有し、意思の疎通を図るための第一の媒体となるべき会報の第1号を発行する運びとなりました。

この会報がこれからその役割を十分に果たせるか否かに会の浮沈がかかっているように思います。会報の発行は行事広報等委員会が担当いたします。

会員各位のご協力とご叱正をお願いいたします。

会長 柏村一郎

## 第1回研究例会が開かれる

4月26日(日)午後2時から那珂町中央公民館で第1回の研究例会が開かれました。テーマは「根本正との出会いと思い、顕彰会への意見、要望、感想その他」、出席者は23名。

会長から臨時総会以降の経過報告と現在の課題について話があったあと、自己紹介に入りました。

その中で当然のことながら根本正との出会いについての話が出ました。

その多くが、「昔根本正という偉い代議士がいたことは漠然と知っていたが、顕彰会が生まれ、加藤先生の『根本正伝』を読んで、改めてその偉大さと人間的魅力に触れることができた。これから顕彰会が大いに頑張ってもらい、根元正の存在を知ってもらい、さらに知識と情報を提供してくれることを期待している」、という話でした。

中には「根本正の胸像が太子町にあるのに那珂町には何もないことを不思議に思っていたし、友達からもそう言われていた」とか、また「太子町など他の地域の人から地元の那珂町でしっかりやってくれなければどうしようもない、といわれていたので顕彰会ができて本当によかったと思っている」という話がありました。

また、「もともと歴史が好きだったので根本正を通して明治、大正という時代を勉強してみたい」という話もありました。また、小針せつ子さんから「加藤先生のご本を読んでア

ルコール中毒の問題に触れて根本正に強い関心と尊敬を抱き、会合や講演の際にはいつも加藤先生のご本を持参して参会者に配布している。テレビなどマスコミ界にも働きかけてきたが、これからもやっていきたい」という話がありました。

根本正の直系の孫に当たる根本正廣さんご夫妻もわざわざ東京から出席され、思い出話とともに、戦災に遭わぬよういろいろ配慮したにもかかわらず、運悪く焼夷弾で遺品がほとんど焼失してしまったこと、それでも正廣さんの実兄に当たる故順さんのお宅には移民地の調査のときのロバに乗っている写真を含めて写真などが残っている。根本正がアメリカに送った手紙や品物がアメリカに残っているのではないか、という話をされました。

(来年あたりからアメリカへ調査に行こうという話は会員の中から出ております。この点については追ってご連絡、ご相談したいと思っております)

自己紹介のあと、資料、遺品等の所在について情報交換が行われました。

(資料、遺品等については、調査研究委員会や資料・史跡保存管理委員会で整理し、目録と利用方法を書いたものを追い追い会員の皆さんに提供していきたいと思っています)

## 第1回理事会報告 3月22日(日) 午後2時から芳野ふれあいセンターで開催。

(臨時総会まで、これに向けての諸準備やSL通行に伴うチラシ配布等の打ち合わせはすべて発起人会というかたちで行いました。臨時総会で理事が選出されましたので、以後は理事会になります)

### 議題

#### 1. 委員会の構成と当面の仕事について

今後は委員会が中心になって仕事を進めることになるので、早急に委員会に所属するメンバーを決め、当面すべき仕事を決めていきたいということです。

(そこで話し合われた当面の仕事と各委員会のメンバーについては次ページをご覧ください)

#### 2. 経費支出の基準について

現在のところ各人が通信費、ガソリン代、コピー代その他を自弁でやっているが、これから会や委員会として遠方に出かけたときの最低の交通費や資料収集のためのコピー代等は会計担当の横地さんに請求してもらう。その他の諸経費についてはできれば事前に理事会の承認を得て支出する。

#### 3. 根本正顕彰会についての説明書の作成について(次ページをご覧ください)

そのほかに、理事の中から、「人をつくり、人を育てることが根本正の活動の主眼であった。顕彰会でもその精神に沿った活動をすべきではないか」、

「町にも青少年健全育成協議会があり、いろいろなところで青少年健全育成の大切さが唱えられているが、その中身とか精神的支えということになると大変難しい。根本正の精神を研究して、これを訴えれば、これが精神的核になるのではないか」、

「今どき成人式に新成人にコーヒーカップやアルバムを配っても仕方がない。加藤先生の『根本正伝』の抜粋をつくって配ったらどうかと提案したが、反応がなかった」、

「根本正についての印刷物をつくって配っても読んでくれる人は少ない。それよりも銅像を建てるとか、スポーツ大会などに“根本正賞”を出すとか、目に見えるものを出せばアピール効果は大きい」、

「どこかに主催してもらって、テレビに出てくる歴史上の有名な人物と根本正というテーマで講演会を開けば、人がドッと集まる」、

「顕彰会の運営も企業経営と同じである。人、物、金というが、多くの人からお金を集めるしくみを考えてほしい。100万円集まれば、いろいろな仕事ができる」、

(レリーフや顕彰のための石造や木造の掲示物については、行政の事業の中で実現できるよう働きかけていきたい。現に清水洞の上土地整備事業が国の補助事業として町の手で行われています。“根本正賞”については予算、賞の趣旨、対象、方法について、難しい問題もあるので、理事会等で話を煮つめていきたいと思います)

## 各委員会への入会のお誘い

4月26日現在各委員会へ入会を申し込んだ方々と3月22日の理事会で話として出された当面の仕事は次の通りです。さらにご希望されるよう期待しております。また、当面の仕事についてもご意見、ご希望をお寄せください。

以下、順不同・敬称略  
行事・広報等委員会 (安斉寧、白土喜弘、海野徹、柏村一郎、高畑精一、白石孝良、遠藤和男)

1. 会報の発行
2. 各市町村や関係機関への協力要請
3. マスコミへの対応
4. イベントの実施と他のイベントへの参加
5. 会員獲得
6. 会のPR

調査研究委員会 (高畑精一、後藤啓文、寺門厚、安斉寧、青山壱美、柏村一郎、会沢義雄、小針せつ子、田中昭、遠藤和男、ジョージ マックレーン)

1. 歴史館
2. 国会図書館
3. 日本禁酒同盟 (三鷹市)
4. 安藤記念教会 (青山学院内)
5. 埴町図書館

資料・史跡保存管理委員会 (海後宗、横地富子、根本正治、柏村一郎、安斉寧、山田正巳、吉澤金次郎、高橋晋)

1. 資料目録の作成と配布
2. 根本正記念室！？の運営管理
3. 写真・書・遺品・顕彰文等の展示
4. 役場と中央公民館の間にレリーフを！？

## 根本正顕彰会についての説明文ご検討のお願い

「根本正顕彰会とは何か」とか「根本正とはどういう人か」と聞かれたとき、「ハイこれです」と示せるものがあれば便利だと思っていましたので、同封したB4版3枚綴りの“根本正顕

彰会”という文書をつくってみました。この文書はとりあえず柏村が作りしました(その際  
会員の一人であられる加藤先生の著書や講演から沢山引用させていただきました)が、これ  
は会の看板となる文書ですから、会員全員でご検討いただき、正式の文書にしていきたい  
と考えております。したがって、同封した文書は原案です。ご一覧のうえ、加除修正すべ  
き点がありましたら、期間が短くて恐縮ですが、5月17日(日)の第2回研究例会までに柏  
村までご連絡ください。(柏村の住所などはその文書の最後にあります)

当日理事会を開いて検討させていただきたいと思っております。なお、この文書は毎年定期総  
会(10月9日(根本正の誕生日)前後を予定しております)に諮っていきたく思っております。  
会員のジョージ マックレーンさんがこの文書を英訳してくださるそうです。

## 第2回研究例会のお知らせ

日 時 5月17日(第3日曜日) 午後2時から4時頃まで

場 所 那珂町中央公民館 1階の一番奥の会議室(2)

テーマ “根本正の全体像”

第1回の例会で各論に入る前に総論をやるのがよい。その際、たたき台として柏村一  
郎「根本正への思いと顕彰会への期待」を使ってみては、という意見が出され、出席者  
が同意されましたので、そのようにしたいと思っております。先日お手許にお配りしましたそ  
の文書をご持参ください。

なお、今後は研究例会のあと必要に応じて各委員会や理事会を開きたいと思っております。

第2回当日は各委員会で正副委員長と書記を決め、当面の仕事を打ち合わせ、初仕事  
の準備をお願いしたいと存じます。また、委員間の連絡網も決めてください。

当日出席された方には常陽芸文5月号(「不屈の政治家根本正」の記事がすばらしいカ  
ラー写真入りで載っています...残部僅少)をお分けします。

## 実現できそうな夢！！

インターネットで根本正顕彰会のホームページをつくる。

□

1. 日本語と英語で根本正と顕彰会についてのメッセージと諸資料を世界に向けて!!発信  
する。
2. 小中高生などのための読み物を電子紙芝居形式でつくり、発信する。  
マンガやイラストの上手な人を会の内外から募って画いてもらう。  
生徒、学生大歓迎.....薄謝を呈します。  
那珂町か、どこかの小中学校に受信してもらい、児童、生徒の反応を見ながら作品を  
仕上げて行く。

皆さん夢をふくらましましょう。これに新しい夢をどんどん書き加えてください。

## 役員のご自己紹介

会長

柏村 一郎



昭和30年 那珂湊一高の教員になり、38年勤めてたあと水戸経理専門学校に5年勤め、いま週に1日だけ大洗高校で情報処理を教えています。商業を担当し、水戸商に19年おりました。

副会長

後藤 啓文



○職業 鍼灸師、カウンセラー

○生き方の参考にしたい人 根本正 と 中村天風

(残念なのは根本正の生の声が聞けないこと)

○趣味 音楽と瞑想

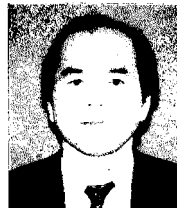
(注) 根本正顕彰会発起人代表です。

安齊 寧



県北生まれが那珂町に住みついて25年、根本先生の偉業を知るにつれて、ますますその魅力にのめり込んでいます。

高畑 精一



昭和24年生まれ、49歳

水戸一高、水戸高等簿記学校卒業

現在、川又商事株式会社勤務

なかなか塾塾長

事務局長

海野 徹

48歳。

『会員の皆様により多くの情報を迅速にお伝えできるよう努力します。』

同封文書について.....つぎの文書を同封しました。

1. 根本正顕彰会 (説明書 3枚綴り).....これでよいかどうかご検討をお願いします。
2. 根本正と顕彰会についての放送原稿(2枚綴り)....会長が5月3日(日)午前11時から“芸文いばらき探訪”という番組で茨城放送から放送した内容です。
3. フォトいばらき 1998年春季号「ふるさとの先人たちシリーズ 根本正」
4. 常陽芸文 1998/5月号 芸文風土記「不屈の政治家根本正」  
2から4までは前回お配りした茨城新聞やタウン誌FREEの記事同様、なかなか塾以来のマスコミ界への働きかけと対応の成果であると評価されています。

## 祝金の受領についてのご報告

3月8日の理事総会に際して下記の通りお祝い金を頂戴いたしました。

根本喜代治様 5万円

根本 表様 5万円

ご厚意に対し、厚くお礼を申し上げますとともに会員の皆様にご報告いたします。

## お詫びと訂正

「今年もSLが走ります」のチラシの中で水郡線が開通した年を昭和9年11月としましたが12月が正しく、11月は誤りでした。会員の川又巖水さんからご指摘をいただきました。

11月28日に水郡線という名前が正式に決まり、6日後の12月4日に開通しました。

また「根本正への思いと顕彰会への期待」の7頁の中頃に“ロンドン条約”とありますが、“ワシントン条約”の誤りでした。不勉強が露見してしまいました。

謹んでお詫び申し上げます。 柏村一郎

## 編集後記

なかなか塾が母胎となって誕生した根本正顕彰会は、会員数で母親のそれを大きく上回り、親より大きくなってしまいました。顕彰会は各委員会の正式な発足まであと一步というところまでできました。顕彰会に対する内外からの期待の大きさを痛感するとともに、顕彰会を生んでくれた母親のなかなか塾の皆さんのご努力に感謝したいと思います。

また、事務局長の海野徹さんには顕彰会の多数の文書の印刷、発送ほか種々の仕事を一手に引き受けられ、手際よく、スピーディーに処理されるので、大いに助かっています。

臨時総会の印刷物を町内で欠席された方々にお届けするに当たって郵送料を節約するために、ご自分の車で配達されました。20数軒あったと思います。

このように、皆さんの熱意に支えられて、顕彰会が動き出したという感が一入です。

手弁当で選挙を戦った支持者たちの姿（つまり手弁当精神）は百年の時を超えて引き継がれています。

I k 記